

議長（前原英石君） 1 番 森 弘秋君。

1 番（森 弘秋君） 私からは、河川等の増水に係る危険箇所の総点検並びに対策について質問いたします。

6 月議会で、村の宣伝のカテゴリーとして、高岡の路面電車サミットの話をしました。7 月 26 日に開催されたんです。で、高岡の路面電車サミットに出席しましたところ、入り口の歓迎看板に舟橋村議会の名前が載っておりました。6 月半ばでしたか、私がこのサミットを聞きに行きますよということで訪ねたんですね。そしたら向こうの配慮といいですか、歓迎看板に舟橋村議会というふうに名前が載っておりました。非常によかったというふうに思っております。300 人程度の出席者であったんですが、驚きです。高岡市内は十数人、県内の高岡市以外は数人、他の方は全国からの出席であり、遠くは岡山県から参加されていました。やはり舟橋村宣伝も各分野で宣伝していきたいというふうに思っております。

さて、この問題にはいずれまた触れることにしまして、本題に入ることにいたします。

先日、富山県警察は、土砂災害対応訓練及び防災訓練を実施しました。備えあれば憂いなしです。

ある大学の学生新聞に、「君たちが今教室に座っているのは、先生がみんなを襲ったりしないと信じているからです。けさ、みんながバス停にいたのは、スクールバスが学校に連れていってくると信じていたからです。きょうも学校があると信じられるから安心できる。日々の暮らしが安全で安心なのは当たり前のことではない。たくさんの人の努力や習慣の積み重ねによって信頼ができているからだ。一たびその信頼が揺らいで生命や生活に危機が及ぶと、もっと大きな枠組みで信じる者を求めるだろう」と。これは、その大学の卒業生が自分の子どもの授業参観に行ったときにお話しされたことです。この中学校は、3 年前でしたかね、台風で被災し建物がなくなると。仮校舎での授業の中で話しされたそうです。

私たちは安全・安心、これを当たり前に見、感じております。これが常であるから現在のそれが当たり前となっております。しかし、昨今の自然災害には目を見張るものがあります。幸い富山県は、立山連峰のおかげかどうかはわかりませんが、今日まで大きな災害はありません。ただ、つい先日、魚津で雨による災害がありました。

舟橋村では、平成 10 年及び 11 年に床下浸水等の被害がありました。さらに昨今では、平成 20 年 7 月にやはり床下浸水等の被害がありました。

私の記憶するところでは、特別養護老人ホームふなはし荘の裏側に流れております用排水路の水量が増し、あわや堤防を乗り越えるのではなかろうかと。乗り越えておれば大惨事になるところでした。それでも大量の雨量で若干の水が玄関先まで入り、職員の方たちが掃除をしておられたことを記憶しております。

また、当日、他の地域の状況はどうだろうかと思い稲荷地域に行ってみると、一部の道路が川になっておりました。車は通れません。いやはや、びっくりしたものです。舟橋村でもこんなことがあるんだとつくづく思いました。これは用水の氾濫でした。

ふだんは何げなく見ておりますが、村内にも増水による危険性があるところは結構あるのではないかというふうに思います。

ごく最近では、我が舟橋地域におきましても、用水の流域が足りないのか、たまたま数十メートル下に橋がかかり、その橋にごみがたまって、それが災いしたのかわかりませんが、些細な原因で事故は起きるのです。したがって、河川、用水の氾濫も予想され、これらに関していつときの油断はなりません。

また、水害ばかりを語っておれません。幸い舟橋村は土石流は考えられませんが、舟橋村の住民が安全・安心に暮らすために、道路幅員の拡幅、危険度の高い交差点の整備、交通網の整備、あるいは河川に転落等の危険のある箇所の防止柵、こういったものを防ぐ未然防止。安心・安全には限りがありません。そこらあたりも総合的に考えてもらい、今後に備えるのが賢明の策と考えます。

さらには、防災訓練も必要です。対岸の火事と置いてはいけないのです。

ふだんはそんなに感じないかもしれないけれども、やっぱり感じておるんです。感じておるんですが、やっぱりなれがありまして、ないだろうという感じになっておるわけですが、そのなれというのは非常に怖いというふうに思っております。災害はいつどこでどんな形で起こるか全くわかりません。まさにことしの平成26年8月豪雨、広島土砂災害はそのことを物語っていると思います。

広島土砂災害は、皆様方ご存じのように、手作業で泥等を撤去している。涙ぐましい光景です。道路が狭く大型重機が入らないと言っております。ここでも、いかにインフラ整備が必要であるかを物語っております。

日本の各所で災害が起きております。村ではハザードマップを作成し、住民に注意を喚起しております。しかし、立山町・舟橋村洪水ハザードマップは2011年6月に作成されたものです。したがって、調査時点は約5年前と考えられます。再度、村内にお

ける危険箇所等の総点検です。事故を起こす誘因の発掘です。

聞きますと、その後はリアルに点検されていると聞きますが、改めて河川、用水、道路、橋梁など、再度総点検を実施してはと考えます。

その調査から、危険度、優先度の高い箇所から整備をお願いしたいと考えるが、村当局の考えをお聞きいたします。

議長（前原英石君） 生活環境課長 高畠宗明君。

生活環境課長（高畠宗明君） 1番森議員さんの河川などの増水に係る危険箇所の総点検並びにその対策についてのご質問にお答えいたします。

議員さんご指摘のとおり、広島県の土砂災害では、1時間に100ミリを超えるような猛烈な雨が降ったことにより、大規模な土砂災害が発生いたしました。この広島県の土砂災害を含め、台風11号、12号や前線の影響による豪雨には「平成26年8月豪雨」と命名されたところでもあります。このような局地的な集中豪雨は、どの地域においても発生する可能性があるということを再認識させられたところでもあります。

舟橋村においては、平成に入りまして、平成10年8月7日に床下浸水被害が12棟、平成11年9月15日には村内の一部の地域で水田の冠水、平成20年7月8日には床下浸水被害が6棟と被災が発生しております。

ご存じのとおり、村内の河川は二級河川の白岩川、細川、京坪川、八幡川がありますが、いずれも富山県の管理下となっております。本村では毎年河川の危険箇所を調査し、県に対して河川のしゅんせつや護岸の修繕などの要望をしております。そのことから、県による河川改修や用排水路の改修工事が施工されております。

一方、村では、自治会要望に対応した予算編成を行い、村内の用排水路は逐次改善されていると思っております。今般の補正予算でも、危険箇所の改修を行うため、舟橋地区のバイパス水路の設置工事費を予算計上したところであります。

今後も、小河川をはじめ用水路にかかる橋梁の拡幅、危険箇所には安全柵などを整備し、地域住民の安心・安全を確保するため、関係機関との連携を密にしながら点検、改善に努めてまいりたいと考えております。

また、舟橋村では、平成19年に洪水ハザードマップを作成しまして、河川の氾濫による浸水の危険性について把握をしているところであります。その中でも、浸水深2メートルと想定されております特養老人ホームふなはし荘が位置する舟橋地区となっております。この浸水深は、白岩川の堤防が決壊や溢水した場合の想定となっております。

す。水位の観測所は、白岩川の交益橋観測所で堤防の上端高が8.2メートルであります。そこに至るまでに、水防団待機水位（指定水位）、氾濫注意水位（警戒水位）、避難判断水位（特別警戒水位）とそれぞれの水位が定められております。これらの水位やその他の情報から、総合的に避難指示、避難勧告の判断をすることになります。特に特養老人ホームふなはし荘の入所者などの避難に時間を有する方については、氾濫注意水位に達し、水位の上昇しているときに判断することと防災計画に明記されております。今後とも、特養老人ホームふなはし荘とは、情報の共有や避難先の確保など、連携を密にしながら体制の強化に努めてまいります。

また、豪雨時には危険箇所を中心に巡回し、用水路の水位が上昇したときには、水門管理地区の生産組合長さんに連絡し水量の調整をしていただいたり、用水路からの溢水が懸念される場合には土のう袋を使用し、浸水被害を最小限にとどめるなどの対策を実行しております。

しかしながら、防災対策は、行政力だけではなく、地域住民の皆様の協力も不可欠であり、日ごろから用排水路の清掃など地域全体で防災力を高めることが必要でありますので、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。